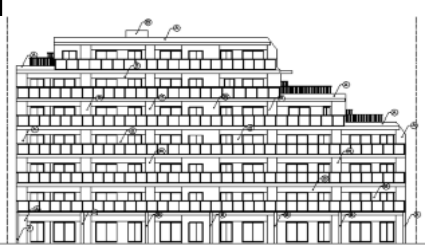


CASBEE[®]さいたま2016年版 | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版

■ 使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.1.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)岩槻プロジェクト新築工事	階数	地上7F
建設地	さいたま市岩槻区東岩槻四丁目3-4	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域	平均居住人員	177人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年1月 予定	評価の実施日	2017年8月8日
敷地面積	1,541 m ²	作成者	株式会社ソーシャル総合設計
建築面積	823 m ²	確認日	2017年8月8日
延床面積	3,512 m ²	確認者	株式会社ソーシャル総合設計



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	79%
③上記+②以外の	79%
④上記+	79%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 2
Q3 室外環境(敷地内): 2
LR1 エネルギー: 1
LR2 資源・マテリアル: 2
LR3 敷地外環境: 2

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

音環境	3.1
温熱環境	3.6
光・視環境	3.7
空気質環境	3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

機能性	3.6
耐用性	3.1
対応性	2.8

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.1

生物環境	2.0
まちなみ	2.0
地域性・	2.5

LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.2

建物外皮の	4.0
自然エネ	3.0
設備システ	3.0
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

水資源	3.4
非再生材料の	2.6
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

地球温暖化	3.8
地域環境	2.8
周辺環境	3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
<p>建築地は東岩槻駅にほど近く、駅ロータリーからも建物が確認できると予想されるため、周辺環境に調和した新たなランドマーク的施設となるように計画した。また、良好な住居環境を提供する為に、音環境や将来の改修にも主眼をおき、地球温暖化や水資源確保など地球環境に配慮した計画となるようにした。</p>	<p>建設工事において発生する廃棄物は徹底して分別し、資源のリサイクル化に努めることとした。</p>	
<h4>Q1 室内環境</h4> <p>外皮性能は住宅性能評価基準5-1の等級4を取得できるように、断熱材および開口部の仕様で配慮した。また、建物に使用する建築材料をほぼ全面的にF☆☆☆☆とした。</p>	<h4>Q2 サービス性能</h4> <p>住宅部分の天井高さや階高を適切な寸法とすることで、良好な住宅環境の確保と将来にわたる改修のしやすさを考慮した。また、節水型器具の使用等によりランニングコストを抑えた計画となるように配慮した。</p>	<h4>Q3 室外環境 (敷地内)</h4> <p>敷地内は適切に緑化を施すことで地表面温度上昇を極力抑える計画とした。</p>
<h4>LR1 エネルギー</h4> <p>各設備機器毎に取扱説明書を手渡し、使用機器の理解度の向上を図ることとした。住戸窓に空気層6ミリの複層ガラスとし、熱負荷低減に配慮した。</p>	<h4>LR2 資源・マテリアル</h4> <p>ODP=0の冷媒や断熱材の使用により地球温暖化対策に配慮した。また、節水型水栓の使用により、地域の水資源の確保に努めることとした。</p>	<h4>LR3 敷地外環境</h4> <p>建物の断熱性能の向上や、省エネルギー性能の高い設備機器を採用することで、CO₂排出量の削減に配慮した。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される